



環境第 2102 号
令和 5 年 11 月 27 日

佐賀県知事 山口 祥義 様
(地域交流部 空港課)

佐賀県知事 山口 祥義
(県民環境部 環境課)

「佐賀空港滑走路延長事業計画段階環境配慮書」に対する県の意見について (通知)

このことについて、環境影響評価法第 3 条の 7 第 1 項及び「飛行場及びその施設の設置又は変更の事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」第 14 条第 2 項の規定に基づく意見は、別紙のとおりです。

【県民環境部環境課】

佐賀空港滑走路延長事業計画段階環境配慮書に対する知事意見

佐賀空港は平成10年に開港し、今年で開港25年を迎えた地方管理空港である。旅客数はコロナ禍前の平成30年度に約80万人に達するなど順調に推移しており、今後も利用拡大が見込まれる。

一方で、既存の2,000m滑走路では、経験豊富なパイロットで運航するなど特別な対応が必要なことや2,000mの滑走路は、国際線航空会社によっては新規路線の展開が困難であることが課題となっている。

このような状況を踏まえ、「佐賀空港滑走路延長事業(以下「本事業」という。)」は、滑走路を2,500mに延長することで、利用拡大に向け佐賀空港が抱える課題の解決を図るとともに、路線展開の自由度の増大や、東南アジア諸国等との直行便の就航を可能にすることを目的として、空港管理者である佐賀県が滑走路延長を行うものである。

他方、本事業の周辺地域の東よか干潟(ラムサール条約湿地)では、シギ・チドリ類を代表とする約100種類以上の鳥類の飛来地となっており、佐賀空港におけるバードストライクの発生は重要な課題の一つとなっている。また、有明海は、環境省が抽出する「生物多様性の観点から重要度の高い海域」になっているほか、養殖海苔の一大産地となっている。

上記のような地域環境の特性を踏まえ、事業計画の検討に当たっては、環境への負荷をできる限り回避又は低減するよう努めること。

1 全体的事項

- (1) 本配慮書では、滑走路の延長案として2つの案が示されているが、環境影響評価方法書(以下「方法書」という。)以降において、対象事業実施区域を単一案に設定する際は、検討の経緯及び内容について記載すること。
- (2) 本事業の実施により、航空機の発着回数が増加することが想定される。また、現在、隣接地では防衛省による自衛隊機の運用が計画されており、同事業での航空機の運用による累積的な影響が懸念される。このため、方法書以降においては、将来想定される航空機の便数増加を踏まえた調査、予測及び評価を行うこと。
- (3) 環境影響評価手続の実施に当たっては、関係自治体、地元住民等に対して事前に事業実施の目的や関連情報を広く周知するとともに丁寧な説明を行うこと。

- (4) 環境影響評価の実施に当たっては、最新の知見の収集に努め、専門家等の助言を得るなどして、適切な調査、予測及び評価を実施し、その結果に基づいた環境保全措置を検討すること。
- (5) 方法書以降の手續においては、配慮書で示されている環境配慮事項の選定について、今後の事業計画の検討状況を踏まえた見直しを行い、その結果に基づいた調査、予測及び評価を実施すること。
- (6) 方法書以降の図書の作成に当たっては、専門的な表現を可能な限り用いず解説や図表を記載するなど、地元住民等に丁寧かつ分かりやすい図書となるよう努めること。

2 個別的事項

【騒音】

本事業の実施により、航空機の発着回数の増加が想定される。また、現在、隣接地では防衛省による自衛隊機の運用が計画されており、同事業での航空機の運用による累積的な影響が懸念される。騒音の影響については、将来想定される航空機の便数増加を踏まえた調査、予測及び評価を実施すること。

【大気環境】

本事業の実施により、航空機の発着回数の増加及び機種的大型化により、窒素酸化物等の排出量の増加が懸念される。大気質の影響については、このことを踏まえた調査、予測及び評価を実施すること。

【水環境】

本事業の実施により、工事中及び供用時に排出される汚濁負荷量の増加が懸念される。佐賀空港に隣接する有明海は、生物多様性の観点から重要度の高い海域が存在し、また養殖海苔の一大産地となっている。水環境への環境影響については、これらのことを踏まえた調査、予測及び評価を実施すること。

【鳥類】

周辺地域では、ラムサール条約の登録地である東よか干潟が存在し、多くのシギ・チドリ類が飛翔している。本事業の実施により、航空機の発着回数の増加に加え、航空機の大型化により離陸時は緩やかに上昇するため、干潟や空港周辺に生息する鳥類とのバードストライクの発生件数の増加が懸念される。鳥類への影響については、これらのことを踏まえた調査、予測及び評価を実施すること。

【生態系】

事業実施想定区域及び周辺地域では、有明海沿岸（生物多様性の観点から重要度の高い海域）や佐賀平野のクリークや水路（生物多様性保全上重要な里地里山）等注目すべき生息・生育域が確認されている。生態系への影響については、これらのことを踏まえた調査、予測及び評価を実施すること。

【廃棄物】

工事に伴い発生する廃棄物について、適切に処理するとともにリサイクルの推進に努めること。

【温室効果ガス等】

工事に伴う温室効果ガス排出をできる限り削減するよう、工事における省エネルギー化の推進に努めること。